



あじさいだより

2004年7月
発行責任 あじさい薬局
あじさいだより編集委員会

プール熱とは？

正式には‘咽頭結膜熱’といいます。アデノウイルスという微生物によって引き起こされる病気で、結膜炎、高熱を主症状とします。プールを介して感染し、流行することから‘プール熱’と呼ばれます。主に5才以下の乳幼児の感染、発症が多くみられます。感染から発症までの潜伏期間は、約5～7日といわれます。

プール熱の症状は？

- ① 高熱：38～40℃の高熱が1週間くらい続きます。
- ② のどの痛み：のどがはれて4～5日痛みます。咳が出て、扁桃腺炎を伴うこともあります。
- ③ 結膜炎：目が充血して、痛み、目やにが出て、目を開けているのがつらくなります。

このほかにも頭痛、寒気、食欲不振などの一般的な風邪の症状が出ることもあります。

プール熱の予防法は？

- ① プールに入る前後はシャワーをきちんと浴びる。
- ② タオル、洗面器などからも感染することがあるので、自分のものを使うようにする。

このほかにも流行しているときは、よくうがいをする、手や指を石鹸でよく洗うなど、風邪の予防と同じように気をつける必要があります。

プール熱の治療は？

プール熱はウイルスが原因のため根本的な治療法はなく、対症療法になります。高熱が3日以上続いたり、ぐったりするときはすぐに病院を受診しましょう。目の症状が強いときも、眼科的な治療が必要となることがあるので早めに受診しましょう。

